

実践報告 4

CAN-DO リストの活用を通じた指導と評価の工夫

ー英語学習への動機付けー

県立惟信高等学校 教諭 北川 博丈

1 はじめに

(1) 本校の現状

本校は全校生徒 1,000 名余りが通う普通科の進学校である。入学する生徒の多くが中学校の段階で英語に対して苦手意識をもっている。年度当初、英語表現 I を担当している生徒 40 名にアンケートを実施したところ、全体の 90% が英語に対して苦手意識をもっていると回答した。そうした生徒からは「何が分からないのかが分からない」や「どのように学習を進めていくべきかが分からない」といった意見が多くあった。また、担当生徒 40 名の平日の平均家庭学習時間は 16.4 分で、家庭学習の習慣が十分に身に付いていないことが明らかとなった。

本校は、平成 25 年度から 27 年度まで文部科学省の「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」に取り組んだ。その研究後も、授業内の言語活動や、ルーブリックを用いて評価を行うパフォーマンステスト（スピーキング、ライティング）を中心とした取組を継続している。

(2) 本校英語科の抱える課題

本校生徒の 6 割以上は大学進学を目指しており、授業内の言語活動やパフォーマンステストに真剣に取り組んでいる。しかし、そういった英語科の授業改善や評価方法の工夫が、全ての生徒の英語力の向上を必ずしも保障できていない点が課題である。

また、上述の文部科学省の研究をきっかけとして、生徒に身に付けさせる力を明確にするために、県内の他校と比べて早い時期から、当時の英語科主任を中心に教科会で議論を重ね、CAN-DO リストを作成した。それ以降も若干の加筆や修正を加え、現在に至っている。しかしながら、本校の英語科教員 13 名にアンケートをとったところ、CAN-DO リストを有効活用していると答えた教員は 13 名中 3 名であった。まずは教員が CAN-DO リストに関して共通理解を図り、その活用法を明確にしていく必要がある。その上で授業や評価の改善を行い、生徒に自分の成長を実感させ、次の目標へ向かわせながら、自律した学習者を育てていくことが課題である。

2 研究の目的

高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒のコミュニケーション能力の向上を目指した指導と評価の在り方について研究する。特に本校の CAN-DO リストや單元ごとの CAN-DO を活用し、生徒自身に学習の到達度を把握させ、学習に対する自律的関与を促し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育む。またその成果を教員間で検証し、言語活動、評価法等の改善を図る。

3 研究の仮説

研究の目的を達成するために、次のような仮説を立てて検証することとした。

仮説1：「学習到達目標の提示→指導→評価→軌道修正」というサイクルを繰り返すことにより、英語学習への自立的関与が見込まれるであろう。

仮説2：指導の中で言語活動を工夫して行うことで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができるであろう。

4 研究の方法

- (1) 「英語表現 I」において、本校の CAN-DO リストを基に單元ごとの CAN-DO を作成する。
- (2) 單元ごとの CAN-DO をワークシート等で生徒に提示する。
- (3) 授業中の言語活動やパフォーマンステストを通して目標到達に向けての指導を行う。
- (4) それぞれの CAN-DO に対しての評価の方法をループリックで示し、生徒自身に学習到達目標を把握させる。
- (5) 学期ごとに CAN-DO の振り返りをさせ、生徒に自立的学習を促す。
- (6) アンケート調査を行い、生徒の変容を検証する。

5 研究の内容

(1) ライティングテストの実施

ア 課題の設定、事前指導

“Introduce one of your classmates with 50 words or more.” 「あなたのクラスメイトを 50 語以上で紹介しなさい」という課題を設定する（資料 1）。事前にループリック（p. 3 資料 2）を提示し、どのようなことに注意して英文を書けばよいか確認する。事前指導の中で、質問をつくらせ、それに対する答え方を練習し、互いにインタビューを行う。そこで得られた情報を基に原稿を作成させる。原稿を書かせている間、添削指導を行い、生徒から出た文法事項や表現に関する質問に答える。

【資料 1 平成 29 年度 1 年生第 1 回ライティングテスト 実施要項】

目的	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、日々の授業で身に付けた表現活動を利用して記述形式で評価することにより、活発な言語活動の一助とする。
対象	1 年生全員
科目	英語表現 I
日程	6 月 5 日（月）から 6 月 23 日（金）までの授業時間内を利用し、実施する。
実施方法	英語表現 I の授業時に各教室で 20 分間（20 点満点）の記述形式で行う。
試験内容	英語でクラスメイトを紹介しよう ※以下の 6 項目を含めること ①名前（またはニックネーム） ②趣味 ③部活動 ④好きな食べ物 ⑤④についての補足 ⑥その他の情報
評価基準	（1）語数（2）構成（3）文法（4）伝わりやすさの 4 点から評価する。
Can Do	【書くこと①】簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと（好き嫌い、家族、学校生活など）について短い文章を書くことができる。
その他	各授業担当者が監督、採点を行う。辞書の持ち込みは不可。 50 語 以上書くことを原則とする。白紙の場合は評価しない。事前に生徒に対して、説明プリントを配り、評価基準を伝えておく。テスト結果は後日返却する。

【資料2 平成29年度 1年生第1回ライティングテスト ルーブリック (評価基準表)】

評価項目	評価基準			SCORE
語数	50語以上	30語以上 50語未満	30語未満	
	5	3	0	
構成	6項目全てについて書かれている。	6項目のうち、4～5項目について書かれている。	6項目のうち、3項目以下についてしか書かれていない。	
	5	3	0	
文法	文法的な誤りやスペルミス等がほとんど見られない。 (3箇所程度まで)	文法的な誤りやスペルミス等がやや見られる。(4～6箇所程度まで)	文法的な誤りやスペルミス等が目立つ。	
	5	3	0	
伝わりやすさ	文の長さ、単語、語句の使い方が適当で、内容が伝わりやすい。	文の長さ、単語、語句の使い方に、不自然さはあるが、ほぼ言いたいことは理解できる。	言いたいことが明確に伝わらない部分が目立つ。	
	5	3	0	
TOTAL SCORE				/ 20

イ 実施、評価、事後指導

制限時間 20 分でライティングテストを実施する。辞書や授業内で扱った資料、ワークシート等の持ち込みは禁止する。作文用紙には再度、評価基準を意識させるためルーブリックを添付する。テスト終了後、ルーブリックを使って自己採点による振り返りをさせ、答案とルーブリックを回収する。教員が採点した後、答案を返却し、何ができて何ができなかったかを確認させる。

(2) 授業内の言語活動と評価

「英語表現 I」の授業において、本校の CAN-DO リスト (p. 11 資料 8) を基に単元ごとの CAN-DO を作成する。CAN-DO の目標到達に向けて、言語活動を行う。言語活動については他の担当者と検討し、ワークシートを作成した (p. 4 資料 3)。ワークシートには言語活動を評価するためのルーブリックを添付する。各単元を終えた時点でどのような力を身に付けてほしいかということ事前に生徒に提示するとともに、言語活動を実施した後は必ず評価 (教員による評価、生徒同士による評価、自己評価のいずれか、または複数) を行い、そのつど何ができて何ができなかったかを振り返らせる。さらに、できなかったことをできるようにするための手だてを考え実践させる。このサイクルを教科書の各単元で繰り返し行う。

(3) 学期ごとの振り返り

各学期の最後の授業で、単元ごとの CAN-DO を含んだ振り返りシート（資料4）を記入させる。それぞれの項目に関して「できる」「ほぼできる」「あまりできない」のいずれかに○を付け、自己評価をさせる。各項目について振り返る際には、より正確に振り返りができるように、参考資料として各学期の授業で扱った内容のダイジェスト版（資料5）を生徒に配付し、それを基に自己評価させる。

【資料4 振り返りシート】

H29 1年生1学期 英語表現Ⅰ 振り返りシート				
1年 組 番 名前		参考資料を見て、該当する箇所○を付けてください		
Questions	Statements	3 (できる)	2 (ほぼできる)	1 (あまりできない)
1	英語で簡単な自己紹介ができる。			
2	日常生活の習慣を簡単な英語で述べることができる。			
3	与えられた語句を使用して位置や場所の説明を英語ですることができる。			
4	英語のSV, SVC, SVOの文構造の違いを意識して、英文を読むことができる。			
5	クラスメートを紹介する英文を50語以上で書くことができる。			
6	現在進行形を使用して、写真や絵を描写することができる。			
7	基本的な不規則動詞の活用を正しく発音したり、書いたりすることができる。			
8	動詞の過去形を使って、子どもの頃の思い出を簡単な英語で書くことができる。			
9	未来形を使って、自分の予定や、今後起こる出来事などを簡単な英語で話すことができる。			
10	授業中の教師からの英語の指示や説明を理解することができる。			
11	教師の話す英語を聞き、発音、アクセント、イントネーションに気を配りながらリピートすることができる。			
12	ペア・ワーク等で、英語でやり取りするときには、相手が聞きやすいようにはっきりした声で発話することができる。			
13	ペア・ワーク等で、英語でやり取りするときには、相手とアイコンタクトをとりながら発話することができる。			
14	ペア・ワーク等で、英語でやり取りするときには、日本語を使わずに積極的に英語で話すことができる。			
15	意味や使い方の分からない単語は辞書で調べ、理解する習慣が身に付いている。			
16	その日の授業をその日のうちに復習する習慣が身に付いている。			
◆上の振り返りシートの結果を踏まえ、1学期の反省と、2学期に向けてやるべきことを記入してください。				
1学期の反省				
2学期に向けて				

【資料5 振り返りシート記入時の参考資料(抜粋)】

H29 1年生1学期 英語表現Ⅰ Self-Evaluation 振り返りシート参考資料

Q1 LESSON0 Introduce yourself!

◆Answer the following questions. (You may use your dictionary.)

- ① What's your name?
- ② What do your friends or family call you?
- ③ Where do you live?
- ④ When is your birthday?
- ⑤ What do you enjoy doing in your free time?
- ⑥ What do you want to do in the future?

◆Give a speech about yourself. (英語で自己紹介)

INTRODUCTION

BODY

- ①
- ②
- ③ or ④
- ⑤
- ⑥

● ANYTHING ELSE TO SAY?(その他の情報)

CONCLUSION (終わりの挨拶)

Q2 LESSON 1 A new school year begins

◆Tell your daily schedule in English. (日常生活の習慣を英語で表現する)

EX. I get up at six every morning. I eat breakfast at seven.

I usually get to school at eight.

→以下 **Q3** ~ **Q16** まで続く

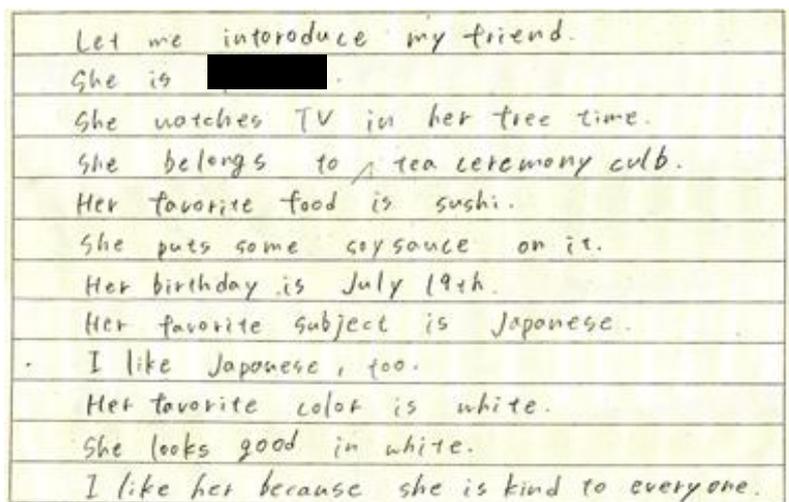
6 研究の実際と考察

(1) ライティングテストの実施

担当クラス生徒 40 名のテストの得点は、平均点 17.5 点、最高点 20 点、最低点 9 点という結果になった。全体の 9 割以上が 15 点以上をとり、39 名が 50 語以上の英文を書くことができた (1 名のみ 43 語)。このことから、既習の表現を用いて積極的にコミュニケーション活動を図ろうとする態度を育成するというライティングテストの目的を達成したと言える。事前指導の中で、グループでインタビューの質問を考えさせたり、添削指導 (授業中の 30 分を使用) の中で誤りや不自然な表現を直させたりしたことがこの結果につながったと思われる。一方で、三単現の s の付け忘れなどの文法的な誤りや単語のスペルミスなどが多くの生徒の答案に見られた。

また、テスト終了直後にループリックを使い自己採点をさせたが、生徒 40 名のうち 18 名が、教員が採点したものと同一点数になった。さらに、30 名 (全体の 75%) は教員の採点結果との誤差が 2 点

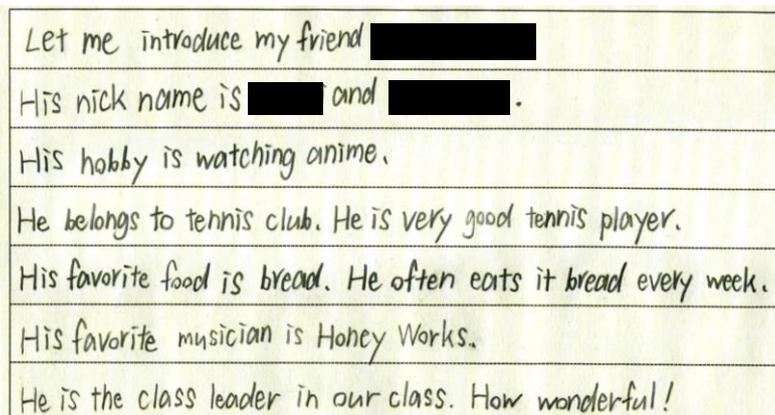
【資料 6 生徒の作文例① (20 点)】



以内であった。このことから大半の生徒はルーブリックの内容に沿ってどのような紹介文を書くべきかを理解できていたと考えられる。

【資料7 生徒の作文例②】

最後に、教員が採点したルーブリックを答案とともに返却した（伝わりにくい表現や誤りにはアンダーラインを引いた）。その場でルーブリックやアンダーラインを引かれた箇所を参考に、何ができて何ができなかったかの確認をさせ、ライティングテストのまとめとした。



(2) 授業内の言語活動と評価

ア 言語活動の工夫

単元ごとの CAN-DO の目標到達に向けて、それぞれ言語活動を行った。事前に必ず教員からルーブリックを提示し、留意事項（どのような力を身に付けてほしいか）ということをお口頭で説明するとともに、全体の前で活動のモデルを示した。まずは生徒全員が物怖じせず英語を話せるようになることを優先し、特に授業の最初に行うスマールトークなどの言語活動は毎回同じペアで行った。しかし、教員が一度チェックをした原稿を基に会話をする場合などは、生徒が比較的自信をもって話せることができると判断し、いつもとは違うペアで活動を行った。また、なるべく生徒たちが日常生活において直面するような出来事や事柄を基に言語活動の場面設定を行った（例：校内での道案内、悩み事に対するアドバイスなど）。

最初にモデルを示し、毎回同じペアで会話をするにより、生徒たちはおおむね積極的に自信をもって英語でやり取りをすることができていた。自分のことを英語で表現し、相手に伝えたいという意欲は十分に伝わってきた。しかし、タスクのレベルが上がり、負荷がかかると、会話が途中で止まってしまったり、日本語を使用したりするケースが多く見られた。また冒頭説明を英語のみで行うと理解が難しいという生徒も何名かいたため、タスクの内容によっては、1回目は英語で2回目は日本語で行うようにした。

イ 言語活動の評価

それぞれの言語活動を実施した後に、何を評価するかに応じて以下の三つのやり方（のいずれか、または複数）で評価を行った。

(ア) 教員による評価

生徒による評価が難しいと思われるもの（例：スピーキングにおける発音、イントネーション、ライティングやスピーキングにおける accuracy など）。

(イ) 生徒同士による評価

ペア・ワークの中で比較的簡単に評価できるもの（例：相手の声の大きさ、アイコンタクト、発表ややり取りの中で定型表現などを使用しているかどうかなど）。

(ウ) 自己評価

自分自身で比較的簡単に評価できるもの（例：ライティングにおける語数や定型表現を使用しているかどうか、ペア・ワークなどにおける自分の声の大きさ、相手とのアイコンタクト、相手の伝えた内容を正確に理解できたかなど）。

生徒たちは、評価をする時も、評価をされてその振り返りをする時も、真剣に取り組むことができていた。特に教員による評価においてはルーブリックで得点を提示するだけでなく、できたことや

できなかったことに関してコメントを付けて示すことが生徒の動機付けにつながると感じた。また、生徒同士による評価の項目に、声の大きさやアイコンタクトを入れることによりそれらを意識させることが徹底できた。自己評価に関しては（p. 4 資料3 ワークシートの例 ◆2）にあるような「相手の伝えた内容を正確に理解できたかどうか」を測る際に有効であった。

(3) 学期ごとの振り返り

1学期の最後の授業で振り返りシート（p. 5 資料4）とそれまでの授業で扱ったワークシート等のダイジェスト版（p. 5 資料5）を用い、この時点で何ができるようになり、何ができているのかを自己評価により確認させた。実際にダイジェスト版を見ながらこれまで学習してきたことを思い出し、振り返りを行うことで、「何となく」ではなく、より正確に自己評価を行うことができた。また、できていないことをできるようになるために、今後何をしていくべきかを考えさせた。

生徒が振り返りシートに書いた「1学期の反省」のコメント（抜粋）

- ・中学校で習った内容が理解できていないというのが問題だと思う。中学時代に使っていたワークブックで復習することから始めたい。
- ・文法（特に文構造）が理解できていないので、夏休み中に参考書を使って復習し理解していきたい。
- ・物の位置や場所を説明する単語や表現の仕方をほとんど忘れてしまっているので、もう1度（授業で使った）プリントを見直して復習する。
- ・外国の人と英語で最低限の会話ができるようになりたいので、ワークシートを何度もやり直していきたい。語彙を増やすために単語集の例文を使い、単語、熟語をしっかりと覚える。
- ・振り返りシートをやってみると、その時（授業で扱った時）はできていたのに、今はできなくなっていることが多くあった。毎日の授業の復習を30分、その週の復習を週末1時間かけて行い力を付けていきたい。

なお、比較のため、別クラスの40名に振り返りシート（p. 5 資料4）と振り返りシート記入時の参考資料（p. 5 資料5）を配付せず、1学期の反省のみを書かせたところ、あまり具体性のない次のようなコメントがほとんどであった。

- ・定期考査はまあまあできたが、2学期は90点を目指してがんばる。
- ・家庭学習の時間があまり取れなかったので、2学期からは家で復習する時間をたくさんつくる。
- ・提出物を出せなかった時があったので、2学期からは気を付ける。
- ・英文を読むのが苦手なのでしっかり復習して克服する。

7 成果と課題

(1) アンケート結果（対象生徒：本校1年生 英語表現I 北川担当生徒40名）

※1から3までの質問は4月と10月に実施し、4から6までの質問は10月のみ実施した。

1	英語が苦手である	4月		10月	
		人数	割合	人数	割合
ア	当てはまる	28	70.0%	7	17.5%
イ	やや当てはまる	8	20.0%	14	35.0%
ウ	やや当てはまらない	3	7.5%	8	20.0%
エ	当てはまらない	1	2.5%	1	2.5%

2	英語が嫌いである	4月		10月	
		人数	割合	人数	割合
ア	当てはまる	13	32.5%	3	7.5%
イ	やや当てはまる	15	37.5%	12	30.0%
ウ	やや当てはまらない	7	17.5%	19	47.5%
エ	当てはまらない	5	12.5%	6	15.0%

		4月	10月
3	1日の家庭での英語学習時間(全体の平均)	18.3分	43.8分

4	振り返りをする事で、何ができて何ができていないかを把握することができた。	10月		85%
		人数	割合	
ア	当てはまる	13	32.5%	
イ	やや当てはまる	21	52.5%	
ウ	やや当てはまらない	4	10.0%	
エ	当てはまらない	1	2.5%	

5	振り返りをする事で、今後どのように学習を進めていくべきか分った。	10月		80%
		人数	割合	
ア	当てはまる	7	17.5%	
イ	やや当てはまる	25	62.5%	
ウ	やや当てはまらない	7	17.5%	
エ	当てはまらない	1	2.5%	

6	授業中のペア・ワークやグループ・ワークなどに積極的に取り組んでいる。	10月		100%
		人数	割合	
ア	当てはまる	27	67.5%	
イ	やや当てはまる	13	32.5%	
ウ	やや当てはまらない	0	0.0%	
エ	当てはまらない	0	0.0%	

(2) 仮説1の検証

アンケート1が示すように4月当初「英語が苦手である」という質問に対して「当てはまる」若しくは「やや当てはまる」と回答した生徒は全体の90%を占めていたが10月には52.5%まで減少した。同じくアンケート2の「英語が嫌いである」という質問に対して「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒の割合は4月が全体の70%だったのに対して10月は37.5%にとどまった。またアンケート4が示すように、1学期末に実施した振り返りに関して、全体の8割の生徒が今後の学習の進め方について理解できたと回答している。アンケート3の1日の平均学習時間は、4月と10月の調査を比較すると平均で25.5分増加している。中には家庭でNHKラジオの英語講座を聴くようになった生

徒や、英検を受験するために自分で学習を進める生徒も出てきた。

このことから、「学習到達目標の提示→指導→評価→軌道修正」というサイクルを繰り返すことが、生徒の学習への自律的関与につながるということが分かった。

(3) 仮説2の検証

アンケート6が示すように、授業中のペア・ワークやグループ・ワークについて積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合は、「当てはまる」と「やや当てはまる」を合わせると100%となった。特に英語を話すことに関しては抵抗感がなくなりつつあり、ほとんどの生徒が相手としっかりアイコンタクトを取り、英語で自分のことを伝えようと努力する姿勢が見られるようになった。

このことから、言語活動を工夫して行うことが積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することに大きな効果があるということが分かった。

(4) 今後の課題

減少はしたが、10月時点で全体の約半数の生徒が英語に対して苦手意識をもっていることが分かった。今後も「学習到達目標の提示→指導→評価→軌道修正」というサイクルを継続し、自らの英語力に自信をもちコミュニケーションをとることができる生徒の育成に努めていきたい。特に、中学校レベルの英語でつまずいている生徒に対しては、中学校卒業程度の英語力があれば、話したり、やり取りしたりすることが十分に可能であるということを言語活動を通して実感させ、家庭での文法事項や単語の復習につなげていきたい。そのためには、言語活動の更なる充実が必要である。

本実践の中で使用した單元ごとのCAN-DOや学期ごとの振り返りシートは、生徒の自律的学習の助長に一定の効果があったが、それらは本校のCAN-DOリストを基に作成したものである。実践を通して見えてきた成果と課題を英語科内で共有し、更に実用性の高いCAN-DOリストを作成していくことが今後の課題である。

8 参考文献

- 愛知県教育委員会 (2016) 「平成27年度『高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究』研究成果報告書」
- 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年3月公示
- Brown, J. D. (2012). Developing, using, and analyzing rubrics in language assessment with case studies in Asian and Pacific languages. National Foreign Language Resource Center, University of Hawaii at Manoa

【資料 8 愛知県立惟信高等学校 平成 29 年度用 CAN-DO リスト】

	1 年	2 年	3 年
<p>読むこと</p> <p>Reading</p>	<p>1-1 コミュニケーション英語Ⅰの教科書(1,600語レベル)を読んで、概要や要点を捉えることができる。</p>	<p>2-1 コミュニケーション英語Ⅱの教科書(2,300語レベル)について、速読したり精読するなど目的に応じた読み方ができる。</p>	<p>3-1 コミュニケーション英語Ⅲの教科書(3,000語レベル)について、速読したり精読するなど目的に応じた読み方ができる。</p> <p>3-2 看板、メニュー、携帯メール、簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われている非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。</p> <p>3-3 簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。</p>
<p>聞くこと</p> <p>Listening</p>	<p>1-1 かなり配慮して、1文ずつ、ゆっくり話してもらえば、教員による英語での簡単な指示・説明を聴いて理解することができる。</p> <p>1-2 かなり配慮して、1文ずつ、ゆっくり話してもらえば、ごく簡単な英語で話された、事物に関する紹介や対話を聞いて、情報や考えを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p>	<p>2-1 ある程度配慮して話してもらえば、教員に英語での指示・説明を聴いて理解することができる。</p> <p>2-2 ある程度配慮して話してもらえば、簡単な英語で話された、事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p>	<p>3-1 はっきりとした発音で話してもらえば、教員による英語での指示・説明を聴いて理解することができる。</p> <p>3-2 はっきりとした発音で話してもらえば、分かりやすい展開の、事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。</p>
<p>話すこと</p> <p>発表</p> <p>Spoken Production</p>	<p>1-1 英語の授業の中で、教員に簡単な質問をしたり、許可を求めたりすることができる。</p> <p>1-2 絵を見て、風景や状況を、簡単な語や基礎的な句、構文を用い、簡単に描写することができる。</p> <p>1-3 前もって話すことを用意した上で、基礎的な語句、定型表現を</p>	<p>2-1 英語の授業の中で、教員に質問をしたり、許可を求めたりすることができる。</p> <p>2-2 絵を見て、風景や状況を、簡単な語や基礎的な句、構文を用い、複数の文で描写できる。</p> <p>2-3 一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら</p>	<p>3-1 英語の授業の中で、教員に質問をしたり、許可を求めたりすることができる。</p> <p>3-2 絵を見て、風景や状況を、既習の表現を用い、複数の文で描写できる。</p> <p>3-3 写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、既習表現を</p>

	1年	2年	3年
	<p>用いて、人前で実物を見せながらその物を説明することができる。</p> <p>1-4 基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報（家族や趣味など）や簡単な情報（時間や日にち、場所など）を伝えることができる。</p> <p>1-5 前もって発話することを用意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句、限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。</p>	<p>自己紹介をすることができる。</p> <p>2-4 写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関係のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる。</p> <p>2-5 一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由をあげて短く述べるることができる。</p>	<p>使って、自分の毎日の生活に直接関係のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、自分の意見、考えを交えて短いスピーチをすることができる。</p> <p>3-4 一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由をあげて短く述べることができる。</p> <p>3-5 使える語句や表現を繋いで、自分の経験や夢、希望を順序だてて、話しを広げながら、ある程度詳しく語るすることができる。</p>
<p>話すこと やり取り Spoken Interaction</p>	<p>1-1 教員による、英語での簡単な指示に対して簡単な応答をすることができる。</p> <p>1-2 挨拶をはじめとして、簡単なやり取りをかわすことができる。</p> <p>1-3 なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。</p> <p>1-4 家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、（必ずしも正確ではないが）なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。</p>	<p>2-1 教員による、英語での指示・説明に応答することができる。</p> <p>2-2 自分のことなど、なじみのある話題について英語で短いやり取りができる。</p> <p>2-3 基本的な語や言い回しを使って日常のやり取り（何ができるかできないかや色についてのやり取りなど）、において単純に応答することができる。</p> <p>2-4 趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。</p> <p>2-5 基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。</p>	<p>3-1 教員による、英語での指示・説明に応答することができる。</p> <p>3-2 簡単な英語で、意見や気持ちをやり取りしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を比べたりすることができる。</p> <p>3-3 予測できる日常的な状況（郵便局・駅・店など）ならば、さまざまな語句や表を用いてやり取りができる。</p> <p>3-4 身近なトピック（学校・趣味・将来の希望など）について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。</p>

	1年	2年	3年
書くこと Writing	<p>1-1 <u>簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと（好き嫌い、家族、学校生活など）について短い文章を書くことができる。</u></p> <p>（下線部：本実践と関係する項目）</p> <p>1-2 自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。</p> <p>1-3 趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。</p> <p>1-4 日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。</p>	<p>2-1 文と文を and, but, because などの簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、基礎的・具体的な語彙、簡単な句や文を使った英語で、日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>2-2 身の回りの出来事や趣味、場所などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。</p> <p>2-3 聞いたり読んだりした内容（生活や文化の紹介などの説明や物語）であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。</p>	<p>3-1 自分に直接関わりのある環境（学校、職場、地域など）での事柄について、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、自分の意見、考えを述べることができる。</p> <p>3-2 身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、道筋を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。</p>
外部指標 <目標>	<ul style="list-style-type: none"> ・英検 3 級（全員） ・英検準 2 級（5%；18名） ・受容語彙：2,000 語 *中学校 (1,200) + コミュ英 I (400) = 1,600 語 *英検 3 級 ≒ 中学卒業程度 (2,000 語レベル) <p>[身近な英語を理解し、また使用することができる。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英検準 2 級（15%；45名） ・英検 2 級（1%；3名） ・受容語彙：3,600 語 *1 年次まで (1,600) + コミュ英 II (700) = 2,300 語 *英検準 2 級 ≒ 高校中級程度 (3,600 語レベル) <p>[日常生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英検準 2 級（40%；140名） ・英検 2 級（3%；10名） ・受容語彙 5,000 語 *2 年次まで + コミュニケーション英語 III (700) = 3,000 語 *センター試験 (4,000 語超) *英検 2 級 ≒ 高校卒業程度 (5,000 語レベル) <p>[社会生活に必要な英語を理解し、また使用することができる。]</p>